

養殖業ビジネスの事業性評価項目（内水面養殖）

<評価点（目安）>

各項目について、0～5点で評価する

【0点（何もしていない）、1点（ほんの一部を実施（十分でない））、3点（養殖業として基本的な取組を実施又は問題ない状況）、5点（特別に十分な取組を実施又は良好な状況）】

大項目	No	中項目	評価の観点
1 市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	○養殖魚種ごとの統計データから、養殖魚種の需要トレンド（過去から現在）を把握し、今後3年の未来トレンドはどうか
	1-2	市場規模	○取扱い魚種そのものの市場規模を把握し、上記1-1のトレンドから、市場ポテンシャルはどうか
2 経営基盤	2-1	経営者	○経営理念、将来ビジョン、経営戦略 ○経営能力、手腕
	2-2	経営管理	○業歴・沿革（評価対象外） ○組織・業務実施体制 ○養殖事業計画、事業継続実績、採算管理 ○コスト抑制の取組
	2-3	事業基盤	○生産拠点、養殖場レイアウト ○漁場環境 ○主要設備
	2-4	営業基盤	○主要仕入先、主要販売先 ○生産品、売上構成 ○主要商品の評価、市場地位
	2-5	人材確保・育成	○人的資産、人材育成の具体的取組 ○後継者の有無
	2-6	事業の将来性	○事業の将来性についての確実性の高い根拠 ○現在のビジネスモデルの有効性
3 販売力	3-1	販路先の確保	○安定した販売先の確保とリスク分散 ○サプライチェーンの確認
	3-2	販路拡大への取組み	○販路拡大への取組みの有無・具体的内容
	3-3	価格決定力	○鮮度・食感・味覚・ブランド（商標）などの優位性 ○販売価格の決め方

養殖業ビジネスの事業性評価項目（内水面養殖）

<評価点（目安）>

各項目について、0～5点で評価する

【0点（何もしていない）、1点（ほんの一部を実施（十分でない））、3点（養殖業として基本的な取組を実施又は問題ない状況）、5点（特別に十分な取組を実施又は良好な状況）】

大項目	No	中項目	評価の観点	
4 動産価値	4-1	換金容易性	○換金市場規模、養殖業種を踏まえた換金性やその難易度はどうか。 ○成長段階や出荷形態に応じた換金性および期間リスクはどうか。	
	4-2	在庫バランス	○市場ニーズ、自社のキャッシュフローや過剰在庫回避を考慮して、養殖魚の出荷時期を調整・コントロールしているか。	
	4-3	物量	○市場・出荷先のニーズ（時期・サイズ・量）に応じた出荷に対応できているか。	
	4-4	将来予想価格	○養殖魚の将来価格はどの程度予想できるか。	
5 生産管理	5-1	生産計画	○種苗の調達見通しの把握・調達の工夫 ○市場・消費者ニーズの把握・仕向け先の選択 ○稚魚活け入れの時期・サイクル・回転期間 ○事業構造（短期養成・長期養成・越冬） ○池の効率的活用	
	5-2	受注・販売管理	○出荷先との契約内容・出荷時期 ○鮮魚・活魚・冷凍加工ごとの管理	
	5-3	発注管理	種苗	○尾数管理 ○販売形態に合わせた種苗の発注（量、時期、受入れ期間）
			飼料	○発注量報告 ○発注頻度・飼料の鮮度管理・ ○発育速度に合わせた飼料選択
	5-4	在庫管理	○池ごとの魚数の把握方法 ○把握のタイミング・頻度 ○管理システムの有無	
	5-5	生産工程管理	○種苗調達は自家採卵・発眼卵・稚魚・中間購入を魚種ごとに確認する ○飼育管理については池入れ時の馴致・サイズ均一化への工夫・給餌方法 ○水温・水量・酸素量のチェック状況 ○日常の作業記録・管理（餌、ワクチン投与、死魚除去・原因管理など）による漁病の早期発見と対応	
	5-6	出荷時能力	○トレーサビリティ（種苗来歴等） ○配送方法・出荷先への所要日数	
5-7	品質管理	○出荷時の鮮度維持 ○成分分析（香・食味・食感） ○品質管理基準の策定		

養殖業ビジネスの事業性評価項目（内水面養殖）

<評価点（目安）>

各項目について、0～5点で評価する

【0点（何もしていない）、1点（ほんの一部を実施（十分でない））、3点（養殖業として基本的な取組を実施又は問題ない状況）、5点（特別に十分な取組を実施又は良好な状況）】

大項目	No	中項目	評価の観点
5.生産管理	5-8	衛生管理	○清掃・洗浄 ○加工施設等の適切な衛生管理
	5-9	認証取得等	○採卵・孵化技術 ○地域ブランド ○HACCP・養殖エコラベル認証等の取得
6.ESG対応	6-1	環境性	○自然環境、生態系保全に対する貢献 ○環境負荷への配慮 ○生物の種の保全（産業管理外来種等区分に応じた外来種やバイテク種の適切な管理状況、漁協・水産試験場との連携。）
	6-2	社会性	○養殖への理解・食育 ○地域貢献
	6-3	ガバナンス	○労働環境（働き方改革・従業員の健康） ○法令遵守
7.リスク管理・対策	7-1	天災回避対策	○台風・集中豪雨のリスク認識と対策 ○水量低減・水温変動時のバックアップの有無 ○水質汚濁（沈殿槽等）・水門の土砂堆積 ○自家発電の発電能力とメンテナンス状況
	7-2	疾病対策	○ウイルス・細菌感染時の処置と対応（冷水病処置・投薬時の水産試験場との連携等） ○病気発生時のトレースバック・回収を行う仕組み
	7-3	環境変化	○水温・水量の変化、養殖魚にストレスを与える外部環境変化（河川工事ダム建設等）に対する感度。 ○河川文化・食文化・食生活嗜好の変化への理解度。
	7-4	損害保険加入有無	○養殖施設の損害に対する保険の加入 ○魚の大量死亡時のリスク回避策 ○養殖共済の対象拡大があれば加入できるよう備えているか
	7-5	市場リスク	○市場価格変動 ○種苗調達の安定性 ○政策変更への備え